

海岸防潮堤

「住民意見を尊重せよ」

県議
会

県に柔軟姿勢求め決議

県議会は11日、本会を守る森の防潮堤」の建設を提案している。これに対し県は、コンクリート防潮堤による津波対策の方針を変えず、三陸沿岸部では高さ最大14・7メートルの巨防潮堤の建設計画を示しており、気仙沼市をはじめ一部沿岸地域では多くの住民が設計高の変更を望んでいるものの、方針は変更していない。

決議文では「そもそも海岸防潮堤は地域住民との合意のもとに建設されるものである」と強調。海と共に生きたいと願う地域住民の切実な声に真摯（しんしん）に答えるべきである」と、住民合意を尊重した海岸防潮堤の建設を要望している。

県議会は11日、本会の建設を住民合意のもとで進める決議文を採択した。県はコンクリート製海岸防潮堤による津波対策を打ち出しているが、地域住民の声を防潮堤建設に反映させるべきとして、県に柔軟な対応を迫っている。

県議会では津波に対する多様な防御策を検討するため、「いのちを守る森の防潮堤推進議員連盟」を全会一致で設立し、県に「いのち